別紙１－１

論文審査の結果の要旨および担当者

報告番号	※　甲　第　　号

氏　　名　　吉　田　文　子

論　文　題　目

Development of the Japanese Version of Teaching Style Assessment Scale

（教師のティーチングスタイル測定尺度日本版の開発）

論文審査担当者

主　査　　名古屋大学教授　　浅野　みどり

名古屋大学教授　　安藤　詳子

名古屋大学准教授　　大川　明子

名古屋大学教授　　山内　豊明

別紙１－２

論文審査の結果の要旨

学習者中心の授業の展開は、クリティカルシンキングや自己主導型学習スキルが身につきやすいとされ、その力量形成は Evidence-Based Nursing の実践には欠かせない。ところが日本においては、教師が自己の授業を学習者中心か教師中心か、自らアセスメントできるティーチングスタイル測定尺度が存在しない。

本研究では、成人教育学をベースに北米で開発使用されている Principles of Adult Learning Scale（PALS）を日本の教師が使用できる尺度として開発した。その尺度は Teaching Style Assessment Scale（TSAS）と命名され、学生の授業評価に加え、教師自身が自己の授業を評価できる尺度として原版尺度から 3 分の 1 短い 30 項目として開発された。

本研究の意義は要約すると以下のとおりである。

１．教師のティーチングスタイル測定の必要性について教授－学習研究の歴史的背景ならびに、アンドラゴジー、ブルームのタキソノミーの観点から明らかにした。

２．TSAS 開発研究では、日本の看護学教員が所属する施設（看護系大学、短期大学、専門学校）の教員を対象とした。回収された 1,111 票の教員の所属は、日本の看護学教員が所属する施設比率と同等であった。

３．PALS 翻訳を使用した質問調査では、日本の看護学教員のティーチングスタイルは教師中心のアプローチに偏っていた。

４．PALS の因子構造と TSAS は類似していたが、さらにノイズを低減するために分析を進めた結果、TSAS は PALS の 44 項目 7 因子構造を変える新しい尺度として 30 項目 5 因子構造として誕生した。

【最終形の TSAS は、質問項目が PALS より短くなったため、回答時間を節約でき、現場で活用しやすい】

５．TSAS の信頼性、妥当性は以下のとおり説明された。

１）基準関連妥当性は、TSAS は新しい尺度ではあるが PALS から作成され類似因子を確認し説明された。だたし、TSAS 実施時に他の外的基準尺度を用いることが不可能であったためその検証はできていない。

２）内容的妥当性は、TSAS は PALS を厳密な翻訳手順に則って作成されたため PALS がもつ内容的妥当性から推定され、かつ TSAS の項目相関によって説明された。

３）構成概念妥当性は、PALS がもつ構成概念妥当性から推定され、かつ TSAS の最終形である 30 項目が PALS と類似構造であったことにより説明された。

４）TSAS の内的整合性の信頼性は、クロンバックのα係数 0.86 で説明された。さらにテストー再テストを付加的に実施し、安定性についても説明された。

本研究は、教師が授業を評価する際の自己診断機能として本尺度（日本語と英語で利用可能）を開発した。日本において教師が日々の実践と研究に TSAS を用いることで教師のプロフェッショナルな実践（FD）や成人教育に関する知識の獲得による学習者へのアプローチに貢献するであろうという重要な知見を提供した。

以上の理由により、本研究は博士（看護学）の学位を授与するに相応しい価値を有するものと評価した。